

## 受賞を契機に新たにに取り組んでいること

### 1. ゴミステーションの整備

当該地区には、13箇所にゴミステーションが設置されているが、住居よう壁の側面を利用し設置したもの、緑道に設置したもの、また、平面だけのもの、周りに壁が設置されているもの等、その形状、使い勝手はすべて異なる、しかし、いずれも環境に調和するよう、住居周りの石積みに使用されている自然石を用いて作られている。近年、ゴミの増加、市からの規制強化に伴い、スペースが狭い、ゴミ袋の上にネットをかけてもカラスの害が少なからずある等、種々の不便が生じている。すでに1年前に、必要に迫られ、班で資金を出し合いブロック塀を設置している所（8班）である。そこで、昨年度受賞を契機に、周囲の環境に調和するデザインでカラスからの被害を防止するゴミステーションの整備を検討することにした。まずは、13箇所のゴミステーションの写真撮影を行い、複数の業者に見積もりを取った。全部の場所で実施するという方向で検討を重ねたが、素材、費用、使い勝手等、いくつかの課題を残したまま次年度に持ち越すことになった。

今年度、まずは6月に、住民の意見を聞くためのアンケートを実施した。①整備の必要性、②現状に対する意見・要望、③整備案に対する賛否等を回答し、委員に届けてもらうという形をとったが、結果は賛否両論、また回収率も60%弱であった。ただ、平面に設置されているゴミステーションでは、三方に壁を設置して欲しいという要望が多かった。この後、委員会でアンケート集計をもとに話し合ったが、このアンケートの結果だけで、実施をすることは早計であるという意見が多く、再度検討することになった。

その後、他地域のゴミ置き場を見て回ったり、運営委員が各班の人達の意見を聞いたり、毎月の定例委員会で何度も検討した結果、まずは、班で資金を出し合ってブロック塀（自然石ではなくむきだしのブロック）を設置された8班ゴミステーションを、現在の形を尊重し、周囲の環境を調和する材質で改築するという結論に達した。ところが、コンサルタントに材質・形状を相談、スケッチを依頼、それをもとに三社に見積もりを取ったところ、三社とも予想をはるかに超える高額で、施工を断念せざるをえなくなった。

再度議論の末、最終結論は、8班ゴミステーションを少しでも周囲の環境に調和するよう、「既存ブロックに塗装を施す」という妥協案で整備することになった。

すでに8班ゴミステーションの整備は2月15日に完了したが、自然石の風合いには及ばないが、違和感なく周囲の色合いに調和するゴミステーションになったように思われる。

残りの箇所については、住民の要望はあるものの現状のままであり、今後の課題として継続していくことになるが、住民の意見・要望を踏まえ、さらに方法・費用など種々の条件を満たし、全ての場所を実施することの難しさを痛感している。

## 2. 外部専門家による指導・支援

現在、当該地区の建築協定は16年目を迎えており、更新まであと4年を残すのみとなり、そろそろ更新に向けた活動をしなければならないと考えている。美しい街並みに対する住民の意識は高いものの、建築協定については、住み替えで人が変わりよく理解できていない人、建築協議書申請の必要から、自分の家を勝手に触れないことに戸惑いを感じている人、規制が家の価値にマイナスに働いていると考えている人など、その役割や必要性についての認識は必ずしも高いとは言えない。そこで、住民の理解・同意を得て、建築協定をスムーズに更新するため、また、次代に受け継がれる良質な街並みの景観を維持するため、昨年度から「住まいと街並み研究所」（代表者 増田史男氏）に協力依頼し、ご指導・ご支援を賜っている。

### 1) 「まちなみ景観セミナー」の実施

平成18年6月11日（日）に3丁目集会場にて、「まちなみ景観セミナー」（講師 住まいとまちなみ研究所 所長 増田史男氏）を実施した。テーマは「美しい町なみ」で、日本と古くからの町なみや新しい住宅地、そして、世界各地のコンクール受賞の町なみを、お話とパワーポイントで紹介していただいた。数々の個性あふれる美しい町なみに触れることができ、加えて、美しく良質な町なみに住む人々のこだわり、価値観を知ることができた。また、美しい町なみの維持・管理に必要なポイントとして、①統一と個性 {樹も美しく、森も美しく=統一すべき項目（例えば素材、エレメント、色彩、緑、ルールなど）と、個性化すべき項目（例えば装飾、色彩、エレメントなど）が調和している。} ②内部要因の健全さ {=共通の価値観、管理体制、少数意見の説得} ③周囲との調査 {=遠景・中景・近景} の三つを挙げ、セミナーのまとめとされた。参加者は二十数名であったが、お話のあと、後世への街並みの継承、住居外周りのよう壁の工夫（=適した植物は？）、受賞賞金の有効利用案（=記念レリーフを制作しては？）、3丁目地区の案内パンフレット作成など、講師との質疑応答、参加者の意見交流を行うことができた。

## 2) 「建築協定解説パンフレット」の作成

先に述べたように、建築協定の期限が平成22年11月となっており、当運営委員会としては今後ともこの街の景観を守り育てていくためには、この協定の継続が不可欠であると判断している。そこで、協定延長の必要性を住民に理解してもらうために、運営委員会の活動の基本となっている協定等について、その目的、具体的な内容を、わかりやすく解説したガイドブック」を作成し、各家庭に配布することにした。この冊子作成にあたっては、研究所の増田氏及び、当委員会の専門委員である鈴木氏に多大なご尽力をいただいた。現在原稿も出来上がり、校正も済み、印刷を待つばかりの状況となっている。ページ数は48ページ、一部カラー刷り、費用概算は1800円/冊である。

なお、この費用については、「住まいのまちなみコンクールでいただいた賞金及び補助金の一部を充てており、平成19年度になってから印刷発注を行う予定である。

## 3) 建築協定の啓発活動構想企画(案)の提案

増田氏によるこの提案は、建築協定運営委員会のまちなみ景観維持向上に関する開発活動の一環として、地域の美しい景観ポイント、この「コモンシティ星田」の開発当初から計画され、開発地内に実現している「星田33景」を再認識することにより、地域への愛着を誇りを増進させ、また、建築協定更新への理解を深めさせ、されには環境の保全と地域の発展に寄与することを目的とするものである。具体的には、住民による写真展、子どもスケッチ大会等を実施し、美しい写真やスケッチ等で「新〇〇景」の作品集を発行し、次代への継承、また作品づくりを通して住民相互のコミュニティの熟成を図ろうとする提案である。

この提案に対して、委員会では真剣な検討を繰り返したが、今年度は昨年度からの懸案であったゴミステーションの整備に関する結論が急がれていたために、次年度への検討課題となった。

## 3. 調査検討経費の使途(18、19年度分)

18年度

- ① 外部専門家による指導・支援
- ② ゴミステーションの整備

19年度

- ③ 建築協定解説パンフレット作成

## 近い将来取り組むべき課題

最重要課題は建築協定の更新に向けての活動を開始しなければならないことである。その際、現在の運営委員会の下に更新準備委員会(仮称)を立ち上げていく必要があり、メンバーについても、今まで運営委員会に参加した人達に呼びかけを行っていきたいと考えている。

また、広報活動の工夫や班ごとの集まりを実施するなどして、委員会が住民にとってもっと身近な存在になるよう、住民の疑問や要望を出しやすい場になるよう、取り組んでいきたい。